

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290900018		
法人名	株式会社 清里		
事業所名	グループホーム 清里		
所在地	〒038-3301 青森県つがる市富港町屏風山1番地1048		
自己評価作成日	平成26年10月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成26年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様始め、家族、当社に出入りする全ての方々に対し、礼儀を持って接することです。また、個人の尊厳保持のために、相手を受け入れることです。 ・利用者様一人一人に対し、トイレの見守り、介助しております。その都度ウォッシュレット、または、蒸しタオルでの清拭介助を行っています。また、トイレ介助にてエチケットタオルにて対応しております。 ・一人に対し、週3回の入浴の他、必要な方に対し入浴日以外の足浴、清拭対応です。夏場の暑いときは、可能な利用者様は、毎日の入浴対応しております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>目の前に十三湖が広がり、自然に囲まれ利便性の高い、開設間もないグループホームである。介護経験者の管理者をリーダーに、理念や礼儀が重視されている。職員も前向きで、利用者の尊厳を尊重した介護支援に努められている。利用者の皆さんも、グループホームを我が家のように共有しながら、個々の能力に応じた生活場面が展開され、メリハリある日常が送られている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のケアの中で尊厳保持に努め、また、状況変化に応じた個別対応を実践している。	人間の尊厳保持に努め、人権の尊重、敬愛、奉仕の精神に徹するよう毎朝のミーティングで振り返り・話し合い、ケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所のお祭りや、行事の際は、地域の歌、踊り等のグループの参加により、利用者様、ご家族、職員も一緒になり楽しめるよう、交流を図っている。	婦人会による踊り、地域ネブタ、子供ネブタ等の訪問や、グループホーム行事への参加等がされている。又、町内主催の清掃奉仕、除雪の手伝い、地域の芸能フェスタへの参加等、地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お祭りの際は、近隣や、地域の方々を招待し、利用者様と一緒にゲームに参加したり、食事をしたりし、認知症の方々と触れ合う機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護保険課、地域包括支援センター、家族、地域の方々と、情報交換、家族の意見、指導を受けながら、サービスの質の向上を目指している。	行政の担当職員、町会長(民生委員)、消防本部職員等が出席し2ヶ月毎に開催されている。会議のメインテーマを設定し、ケア内容に関する内容等が話し合われ、ケアサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、介護保険課担当者の方に参加して頂き、助言・指導を仰いでいる。また、日頃から解らないことがあれば、助言・指導を受け、現状を共有し、解決に取り組んでいる。	成年後見制度を利用する際や介護保険制度についても、不十分な部分、疑問に思っていること等に関し、積極的に助言、指導を得ながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロで実践している。家族より、車椅子から落ちるといけないのでガードして欲しいとの申し出に対し、安全な対応を検討し対応している。	身体拘束マニュアルを作成し、研修の予定も立てられている。入居前、安全面で身体拘束対象であった利用者に関して十分に話し合い、リスクも考慮しながら、身体拘束しないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならないことを前提に、朝礼ミーティングで、徹底した話し合いがおこなわれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、勉強の機会を設け、社内研修で勉強会を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、重要事項説明書を説明し、納得できるよう理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には、何か要望がないか聞くように対応しています。家族には、面会時、現状報告し、何か要望がないか、話し合いの場を設けています。運営推進会議でも意見をあげてもらっています。	玄関に設置している意見箱への投函は無いが、利用者、家族の意見・要望については常に何でも言ってもらえるように対応している。又、運営推進会議で報告・助言を受け、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や、ミニ会議を開き、意見を言える風通しが良い環境である。全員の意見を話し合いのうえ決定している。	毎朝の小ミーティングや日常的に職員の意見や要望を引き出している。ケア・業務内容や研修希望等、多岐に渡り反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修への参加により、レベルアップを図っている。就業規則に基づき、やりがいを持ち、向上心を持って働ける環境に努めている。また、有給の確保を目指しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が交代で外部研修を受ける機会の確保に努めている。資料はいつでも閲覧できている。内部研修では、報告・勉強会が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加により、他事業所との交流があり、情報交換の機会に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り、本人の要望に耳を傾け、本人の思いを受容し、安心した生活を送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、願いに耳を傾け、入所までの経緯を受け止め、今後の支援に向かって、互いに理解しあえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がその時必要としている支援を見極め、家族と相談し他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	私達は、家族にはなれないが、24時間・365日、共に生活しているので、信頼関係の構築ができるよう日々努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行されるお便りを通して日々の生活をわかるようにしたり、面会時・電話等の連絡にて現状を伝え、家族と相談しながら、対応の方針を決めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の友人や、近所の方々が気軽に遊びに来れる環境づくり努力している。また、昔から馴染みのある物産館へ買い物に行くようにしている。可能な利用者様は、月1回自宅へ帰り、近所や、友人と交流を図っている。	昔からの友人や近所の方々が気軽に遊びに来てくれている。馴染みの物産館に出掛け、地域の人々との交流が図られている。また、家族の協力のもと自宅に帰省したりと、今迄の関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事はみんなで食べたいという願いから、食事は、みんなが揃ってから、「いただきます。」と、言葉を交わしながら、食事の場を大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、他事業所へ面会に行き、様子確認したり、家族に電話連絡等にて様子確認しています。退所後も家族と相談関係にあるため、再入所の方もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望、意向の把握に努め、本人の思いに添えることが出来るよう、職員間で共有し、家族に相談し、本人本位のもとに支援を行っている。	日々の関わりの中で利用者の思いや希望、意向の把握に努め、困難な場合は家族から聞くようにしている。その都度本人の意向を確認し、職員間で共有しながら検討し、本人本位となるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境などは、本人や、家族、居宅サービス事業所からの情報を得て今までの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員で共有できるように、連絡ノート・日誌等を活用し、朝礼で伝達を行って、一人ひとりの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービスの質の向上のために、職員間でいつでも課題をあげてもらい、その都度家族へ報告し、意向を聞いたうえで、ケアカンファレンスを行い、意見等が反映された介護計画になっている。	アセスメントシートを活用しながら、本人・家族の意向を把握・理解し、課題とケアの在り方について、モニタリング・カンファレンスが行われ、現状に即したケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子が、日誌、申し送り等により、また、朝礼の伝達、ミニ会議での情報を共有し、実践や介護計画に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に対応できるような体制に取り組んでいる。近年の暑さに応じ、毎日入浴できるように入浴体制に取り組んだ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症の方々を守るために、駐在所の方と連携をとっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の要望に合わせて、今までのかかりつけの病院に受診できるよう、個別対応をしている。	本人・家族の要望に合わせて、近隣から遠方迄、今まで通りのかかりつけ医受診の支援がされている。家族との情報共有も行われ、適切な医療が受けられている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護師とで常に連携とれる環境である。利用者様が適切な受診や看護を受けられるようその都度指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、家族のやりとりや、病院担当者との情報や相談に努めている。退院後のケアに備えて病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、入所時に家族と話し合い、事業所のできることを説明し、その状況に応じて家族に説明し、方針を共有している。また、看護師と共に、全員で取り組むよう努力している。	重度化した場合や終末期の在り方については、入居時に基本的な姿勢の共有がされているが状況・個々に応じ、柔軟な対応に向け取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生に備え、消防署から救急救命士による救急法のグループホーム内で研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害の災害時に避難場所に避難できるよう、訓練を行っている。地域の方と連携をとっている。	近隣住民・消防分団の協力を得ながら、年2回の火災想定避難訓練(うち1回は夜間想定)や水害時の行動確認も行われている。災害備蓄品として、飲料水、オムツ、非常食等数日分の準備もされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ等は、日々徹底している。また、トイレ介助時は、エチケットタオルを用いている。オムツ交換時も同様である。	一人ひとりの人格を尊重して、本人の羞恥心や思いを大切にした取り組みがされ、プライバシーを損ねないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と職員はともに行動することが多く、一緒にお茶したり、畑作業をしたりと、その中でコミュニケーションをとりながら、本人の思い、願いを聞けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の体調に合わせた支援、本人が望む支援ができるよう日々努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔・整髪の徹底化を図っている。季節・天候に応じた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは個別の好みに合わせている。日々の生活の中で、生き甲斐を持てるよう、利用者様と職員が畑へ野菜を採りに行き、一緒に調理をし、食事の後片付けもしている。	利用者と共に育てた野菜を収穫し、下ごしらえや調理の際も一緒に行われている。一つのテーブルをみんなで囲み、味付け等の会話が聞かれている。食後の後片付けも、自主的に行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家族から情報を聞きながら、今までの生活習慣に近づけるよう、本人に合った食事量を提供している。水分量は、一日の摂取量を記録にてチェックされている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別対応にて清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	歩行困難な方・おむつ使用な方でも、日中はトイレ誘導している。寝たきり防止の為に、トイレでの排泄を実践している。	排泄パターンを把握しながら、歩行困難な利用者、オムツ使用の利用者であっても、日中はトイレ誘導を行い、身体レベルの維持も兼ね、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の確保や、排便状況を記録に残し、チェックできるようにしている。また、日頃の運動、ラジオ体操、ケアビクス、を実践している。個別に乳酸菌飲料を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	個々に、入りたい時間帯がある方は、その時間帯に合わせている。入浴時、職員とおしゃべりし、楽しいひと時を過ごせるように対応している。また、個別に合った入浴体制をとっている。	週3回の入浴を提供し、更に入浴したい時間帯に応じた体制を整備している。ミストシャワーも設置され、重度化しても入浴を楽しめる工夫がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、運動・食事の準備・後片付け・掃除等で活動していただき、夜はゆっくりと過ごせるようにしている。疼痛のある方は、足浴対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の病状、薬の内容等は、把握できている。服薬は、二人確認で行われている。薬が変更あった場合、病状も含め全員に申し送りされ、また、記録はいつでも見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割を持って頂き、ハリのある生活を送れるよう努力しています。嗜好品においても、個別に合わせ対応している。気分転換に、ドライブへ出かけ、ソフトクリーム・おやき等を食べて楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い時は、十三湖・公園・物産館・山等へ出かけている。商店では、年齢に合わせて小さいソフトクリームを作ってくれたり協力していただいています。歩行可能な方は、いつでも、郵便局・物産館へ職員と一緒に出掛けている。	定期的な計画の他、天気の良い日は、利用者の希望により適宜外出支援が行われている。他、近隣周辺の散歩、家族の協力を得ながらの外出等も働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族了解のもとで、個別に持っている方もあり、自由に使っている。外出の際、買い物した時財布を渡し、付き添いながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解を得ている方は、自由にかけたい時、電話できる対応をとっている。時により、遠方の家族の方々へ、手紙・写真等を送る体制をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかるよう、その季節ごとに飾り付けをしている。また、暦の行事を生活に取り入れられている。夜は夜の照明に切り替えている。	開設間もない建物であるが、古民家の天井の梁を思わせるような建材を使用し落ち着いた感じを出している。目の前の十三湖を眺望でき、適度な床暖房で快適かつ居心地よく過ごせるように工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でいたい時は、自分の椅子に座って、TVを見たり、歌を聞いている。気の合う方々でおしゃべりする時は、十三湖を眺めながらソファに座っておしゃべりされてくつろいでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使い慣れた馴染みの物は、居室等に置かれ、現在も以前同様使っている生活をしている。パジャマ・タオルケット・毛布類等も同様である。	写真や思い出の品、テレビなどが持ち込まれ、利用者それぞれが居心地良く生活出来る様に工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ等は、どこからでも分かるように、プレートを用いている。		